

平成29年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・視覚障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための専門的な指導を系統的に行う。	○視覚障害についての高い専門性と系統性のある授業実践を目指し、研修や研究の機会を通して職員で学び合い・支え合えるようにする。	○年間を通して新着任者研修および授業研究等の研修・研究を効果的・継続的に実施し、授業や講義を見たり聞いたりするだけでなく、研修の講師となる機会を持つことで自らの知識や技能を見直し、他者に伝え合いながら専門性の向上につなげる。	○できるだけ多くの職員が研修や研究の機会を持ち、お互いの知識や技能を伝え合い、学び合うことができ、それを授業実践の場につなげることができたか。					
2	幼児・児童・ 生徒指導・支援	・幼児児童生徒一人ひとりの実態をふまえ、課題を的確に捉え、個別教育計画にもとづいた指導や支援を組織的に行う。	○幼児児童生徒の実態を複数の目で確認しながら正しく把握し、その中で適切な課題や目標設定にもとづいた指導や支援を実践する。	○個別教育計画における長期目標や短期目標の内容を複数の教員で多角的に考え、より具体的な系統性のある目標や手だてとなるようにする。	○専門職等も含めた複数のメンバーで幼児児童生徒の実態把握・目標設定・評価を行い、チームによる指導や支援を実践することができたか。					
3	進路指導・支援	・幼稚部や小学部を含む早期から高等部まで自分の将来について主体的に考えられるように支援し、一貫した進路支援を行う。	○幼稚部から専攻科までを見通した一貫性・継続性のある進路支援の実現に向け、幼児児童生徒の進路計画を組織的に考え、全校で情報共有できるようにする。	○学部説明会や体験入学または進路説明会や進路懇談会等を計画的に実施し、保護者等とできるだけ早い時期に進路に関する情報を共有できるようにするとともに幼児児童生徒本人・保護者・教員が将来の進路選択や進路決定に対するイメージ作りができるような発達段階に応じたキャリア教育の視点を持った教育活動を展開する。	○幼児児童生徒や保護者が進路に対する具体的なイメージを持てるような取組みを学校組織として推進することができたか。また、国家試験合格にむけた有効な支援を組織的に行うことができたか。					
4	地域等との協働	・関係諸機関や地域とのつながりを強化し、連携・協力・支援体制を確立するとともに、視覚障害教育や盲学校に関する情報を発信する。	○視覚障害教育に関する地域センター的機能を充実させるための取組みを組織的に行い、その成果や結果を校内で分析・検討しながら県内の視覚障害教育のネットワーク作りを推進していく。	○センター的機能の充実に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、そのメンバーを中心にして、弱視級のある小中学校または乳幼児教育相談等に係る幼稚園や保育園および関係諸機関(医療・福祉・行政等)への働きかけや広報活動を継続的に行い、その成果や課題を全職員で共有し改善につなげていく。	○弱視級を中心とした「学校間連携・学校支援」、「乳幼児支援」、医療や福祉・行政等との「関係諸機関との連携」という3本柱を中心に実際の働きかけ(広報活動や情報共有など)を行いながら、それぞれのネットワークの構築・連携強化を推進できたか。					

5	学校管理 学校運営	<p>・安心安全な学校作りを推進し、組織として指導体制や管理体制の見直しや整備を進める。</p>	<p>○幼児児童生徒が様々な訓練を通して、自らが危険や危機を察知し、状況に応じた行動をとることができるよう支援を行う。</p>	<p>○「TPO」(時間・場所・状況)に変化を持たせ、シェイクアウト行動などの幼児児童生徒の自助行動を促しながら、防災訓練を実施する。様々な状況を想定し、危険や危機への対応力が身につくように工夫する。</p>	<p>○様々な発災状況を想定した防災訓練等を実施し、幼児児童生徒自らが、早期に危険箇所を把握したり、主体的に自分の身を守れるようにすることができたか。</p>					
---	--------------	--	---	--	---	--	--	--	--	--